

WORLDCOM AWARD 2024 in Tokyo

企業・団体名 : 株式会社ホロンシステム
氏名 : 小林正博
肩書き : 代表取締役会長

■略歴:

新潟県長岡市生まれ。1961年、京都大学経済学部卒業。在学中、田杉競教授のゼミナールにて経営学を学ぶ。卒業後、化学会社、コンサルティングファームを経て、1971年経営システム研究所を創設。ゼネラルコンサルタントとしてトップマネジメントを中心に経営指導、診断、講演、研修、執筆と活躍した。1988年5月、株式会社ホロンシステムを設立し、代表取締役社長・会長として会社を引っ張り、現在に至る。

創業4年目のダウンサイジングの来襲

私の人生のモットーは「生涯現役、生涯前進、生涯青春」です。日本の30年先はひとりぼっちで身寄りのない1人で生活が出来ない寝た切りの方が約500万人位になると推定しています。こんな方々を誰が寄り添って支えるのか、人が人を支える時代はとっくに終わっているのではと懸念しています。支えるのはロボットしかありません。人間のパートナーとして、ヒューマンロボットメーカーに変身するのが我々の経営戦略です。

ホロンシステムは1988年5月に私が社長として創業しました。経営コンサルタントとして依頼された社員教育をしていた計算センターの若手3名がお金も、人脈も、ノウハウも、経営経験もなく、先生に指導して頂き、新しいソフトハウスを起業し、社長になって下さいと頼ってきました。

私は当時経営コンサルタントとして著書が大ベストセラー、ロングセラーになり一躍業界の有名人になり、超多忙でしたので断りましたが、放っておくと3ヶ月で倒産と思い、若い将来のある生徒を見殺しにする訳にもいかず、熟考の上、非常勤の社長になりました。

そして1000万円の資本を出し、後は参加する者達が数人で1000万円を出し、スタートしました。

1988年5月です。私が社長を引き受けたと知った生徒達が私も私もと押しかけて、創業して1年後には70人の会社となりました。

事業はウナギ昇りで上昇しました。3年目にはバブルがはじけ大不況となりましたが、あまり影響はなく順調でしたが、4年目にアメリカ発のダウンサイジングが来襲して、売上はいきなり42%もストーンと落ち、業界は7000社あったソフトハウスが1年で1000社が消えてしまいました。業界は国から構造的な不況業種と断定され、助成金が支給されました。

これに助けられ、資金繰りをなんとか繋いで乗り切りました。

現在はシステムインテグレーション、システムコンサルティング及びソリューションの提案、クラウドサービスを提供しています。

世の変化に対応したビジネスの大変身

30年先の社会で企業が高い評価を得るためには、売り上げや利益の多さだけではなく社会貢献度の高さがキーポイントになると考えています。利益の内、どれくらいの割合を社会貢献に割いているかの%の高さが評価される時代が来ると思っています。当社が積み重ねてきた社会や企業の基幹システム開発は、縁の下の力持ちの事業。つまり、一般の方々の目に触れる機会がありません。そのため、表舞台に立って「ありがとう、助かっているよ」と言っていただけのビジネスに変身させます。そうすることで、社員たちにも社会貢献に携わっているという意識が芽生え、モチベーションもさらに高くなると思います。

また、システム開発はいずれAIに取って代わられると予測しています。そのため、当社では全社員に対してAIに関する基礎研修も実施しています。AIはあくまで道具で、使うのは人間です。ですから、システムとAI技術者を必要とする企業にコンサルティングを提供できる体制を整えていきます。まずはAIの資格取得者を増やし、AIプランナーを育成して、AIコンサルタント事業を立ち上げ、会社の看板にしたいと考えています。同時にロボットの研究に着手し、AIを活用して基礎づくりに力を入れます。当社をヒューマンロボットメーカーにする夢のため、残された余命で基礎づくりをして次世代に伝えるのが会長の仕事と心得ています。

以上